

特許  
とれたて!!  
take out a patent

## 技術とアイデアで競争力を高める 老舗・石材店の挑戦 “ありそうでなかった”オリジナル墓誌の発明

有限会社 齊藤石材店

埋葬された人の命日や戒名、俗名、享年、略歴などを刻んだ石碑—墓誌。

それは、自らの先祖との繋がりや家の歴史の軌跡であり、供養だけにとどまらない重要な意味を持つ。今回、八郎瀧で大正10年から続く老舗の石材店・齊藤石材店は、今までにない機構の墓誌を開発。2018年3月、特許を取得した。(特許 第6312099号)

ヒントは障子。

### 一枚ずつ差し込む“墓誌”の開発

「通常、大きな一枚石に直接お名前を刻んでいくのですが、今回開発した墓誌は、お名前を一枚ずつ名札のように差し込めるものになっています」。

齊藤壽幸社長が示した碑面には、細長い石のプレートが並んでいる。高度な技術力を感じさせる上下の溝に沿い、片側10枚ずつ、両面で20の“名”を残すことができる構造だ。

「墓誌に文字を刻むには持ち帰って作業するのですが、一枚石だと大きくて重いため、2人以上の人手が必要です。繁忙期は人手が不足するし、人件費としてお客さまの負担は大きくなります」。

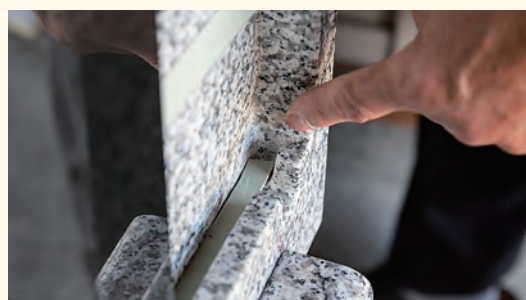
墓誌は、自らのルーツを物語るものであり、託された次の世代にとっても大切に守るべきものであってほしい。その思いから、お客さまと作業員、双方の負担を軽減できるものが造れないかと考えた。ヒントになったのは障子。部分的に張り替えてできる障子を見て、これだ!とひらめいた。試作を繰り返し、家族からのアドバイスに耳を傾け、わずか4か月で現形にこぎつけた。

### 技術とアイデアは財産

齊藤社長にとって特許は決して縁遠いものではない。過去に、同業者にデザインを模倣され、泣き寝入りするしかなかった苦い経験があるからだ。その時から、培った技術とアイデアによって高めた製品の価値を財産とし、意匠登録などを積極的に行ってきた。

「他社と同じものを作っているのは、最後は価格だけが決め手になってしまう。その争いを避けるには、自分たちだけのオリジナル商品を生み出す必要がある。特許はその技術とアイデアを証明し、守るための手段です」。

お客さまのことを第一に考え、歩んできた長い年月。地域の信頼と要望に応えるため、齊藤社長は今日も新たなアイデアをふくらませる。



特許の決め手となった溝。貫通させずに内枠を象するには熟練の技が要る。



代表取締役  
齊藤 壽幸  
Toshiyuki Saito

### 有限会社 齊藤石材店

〒018-1622  
秋田県南秋田郡八郎瀧町字一日市165-19  
TEL.018-875-3068  
URL <http://saito-sekizai-ten.com/>

### 会社概要

耐久性に優れた墓石・石灯籠・モニュメント・石刻製品(表札・文字及び彫彫りなど)の受注製作販売。

